

永平寺をお開きになられた道元^{どうげん}禅師は『正法眼蔵^{しょうぼうげんぞう}』「供養諸仏^{くようしよぶつ}」の巻で、
「過去の諸^{しよぶつ} 仏を供養したてまつり、出家し、随順^{ずいじゆん} したてまつるがごとき、かならず諸^{くぶつ} 仏となるなり。供^{くぶつ} 仏の功德によりて、作^{さぶつ} 仏するなり。」と、示されています。

「これまで修行し悟りを開かれた多くの仏さまに供養をして、出家をし、仏さまの足跡^{そくせき}に^{したが} 従って歩みを進めるとき、私たちも必ず仏となることができる。仏さまを供養する功德により仏さまと同じくなる。」ということです。

大変にありがたく、強い力で背中を押していただいているように感じます。仏さまの足跡に^{おこた} 従うとは、多くの仏さまがつとめてこられた修行の道を同じく^{おこた} 怠りなくつとめよということです。道元禅師は私たちに、供養と修行は同じ道であることを示されたのです。たとえばお釈迦さまは、この世の真理を多くの人たちに分かり易く伝え、また、多くのお弟子さんを導くことを修行としておつとめになりました。道元禅師もお釈迦さまと同じ道を歩まれました。私たちは仏にあこがれ、お釈迦さまと同じになりたいと願っています。

さらに道元禅師は、「いまだかつて一^{いちぶつ} 仏をも供養したてまつらざる衆生^{しゆじょう}、なによりてか^{さぶつ} 作^{さぶつ} 仏することあらん、無^{むいん} 因^{さぶつ} 作^{さぶつ} 仏あるべからず。」

「まだ一度も仏さまを供養したことの無い人々が、どうして仏となることができようか、仏さまとの縁を結ばない人は仏になることはできない。」と続けられます。

つまりは、心の中でたった一度でも仏さまを供養することができれば、その人は必ず仏の道を歩むことができるのです。私たちの日常において、ご先祖さまに心を寄せ、仏さまを供養することが、仏となる第一歩なのです。そして、この一歩を続けることで、道元禅師が示されたとおり、私たちが仏さまと同じ道を歩み進めることができるのです。

「^{くぶつ} 供^{さぶつ} 仏の功德によりて、^{さぶつ} 作^{さぶつ} 仏するなり。」

仏さまの供養をつとめる道が、そのまま私たちが仏へと導いてくれるのです。供養の道は、仏さまと私たちが共に行う修行の道なのです。